

旅するソングライター―浜田省吾について

野町 真理

1970年生まれの私がティーンエイジの時、レンタルショップで借りたCDの中に、浜田省吾のアルバムがあった。

二枚組のJ'BOY、次にDOWN BY THE MAIN STREET、そして、FATHER'S SON。空しさと孤独の中で、心の闇を抱えてさまよっていた私の心が、見事に共鳴したことを今でも覚えている。

特に「SILENCE」という曲の歌詞が、当時の私の心境とよく似ていて、何度も繰り返し聞いた記憶が残っている。

何を隠そう、私は今、キリスト教の牧師をしているのだが、今でも浜田省吾の歌を聴き続けている。20歳の時に聖書に出会い、そしてキリスト教の洗礼を受けて信仰の道を進み始めた当初、しばらくblankがあった。けれども、聖書を読み込んでいくと、浜田省吾の曲が再び聴きたくなった。ON THE

R O A Dと名付けられた、旅する浜田省吾のライフスタイルに、天を見上げて地上を旅する聖書信仰のライフスタイルが見事に重なったのだから。

M O N E Y、S E X、そしてP O W E Rに関することをよく歌っているので、浜田省吾の歌を敬遠される方がいるかもしれない。けれども、アルバム単位でじっくり聴くと、「金で買えない本当の愛」を求めて、一貫して歌われている。

手の平からこぼれ落ちる砂のように、手に入れた形あるものは、やがて失なうのに、人はそれを夢と名付け、迷いの中さまよう。そのような歌うことによって、この地上の人生の儂さをいやというほど噛み締めながら、時に天を見上げ、「心のすべてを奪い去る本当の愛」を求めて、浜田省吾は求道の旅を続けている。私はクリスチャンになった時から、浜田省吾が救われ、J E S U Sを愛するJ I B O Yになることを密かに祈り続けている。

浜田省吾はTVのようなメディアに出ることをほとんどせず、ライブをしながら全国を周る旅によって、草の根的にファンの裾野を拡げてきた。

特に7年前、東日本大震災が起こった年の春、ほとんどのアーティストたちがコンサートを中止したり自粛する中、浜田省吾はコンサートを続けた。危機的な状況の中でも、人々を励ましたり、慰めたりすることのできる歌が多くあるからこそできたことだと思う。

浜田省吾は自らのことをソングライターと紹介する。その名の通り、ほとんどの曲を自分で作詞作曲し、そして鍛え抜いた魅力的なボーカルで自ら紡ぎ出した歌を歌う。1952年12月生まれなので、2018年現在は65歳であるが、まだまだ現役バリバリである。

お父さんが広島原子爆弾で被爆していたこともあり、核による新しいスタイルの戦争を憂い、一貫して反戦の歌を歌う。ファーストアルバムから歴史を水に流すこの国の現状

を憂い、この国が変わることを願い、次世代
の子どもたちに、希望のバトンを渡していく
ために音楽活動を続けている。